

## 第9回

## 空間

～“空間演出”という表現～

美術教育監修・執筆

橋本琢磨

(NHK学園 芸術科 教諭)

あなたの周りには、多くの「空間」が存在します。「身体空間」「室内空間」「屋外空間」といったように、空間はさまざまなスケールで捉えることができます。その空間を効果的に見せることが、「空間演出」。あなたの生活圏においても、自宅や商業施設、駅前の広場などの実在の空間から、舞台やテレビの画面の中のセットなどの仮想の空間まで、たくさんの「演出された空間」があります。

学習前  
チェック!

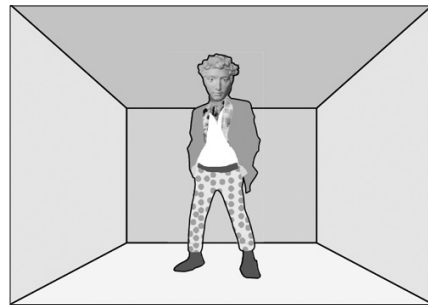
今回は、物の配置や光の当たり方による空間の印象の違い、そこに作り手が込めた意図、テーマに合わせた空間演出、の3つを軸に、学びます。

## 空間演出の定義

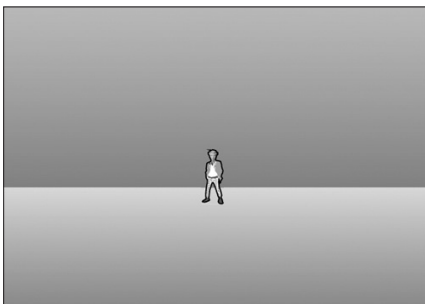


それが屋外だとしても、

[縦・横・高さ]があるのが、空間です。



屋内だとしても、



どんなに引いても、

そこには空間がある、と言えます。

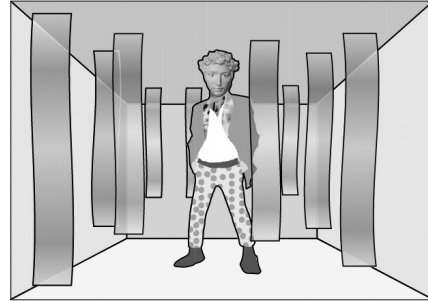
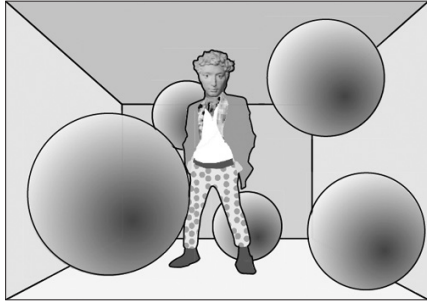


どんなに近づいても、

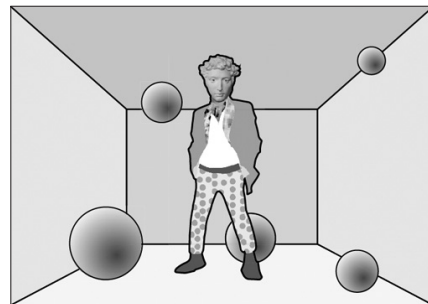
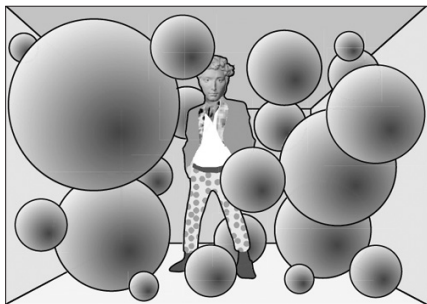
つまり、それらの空間にかかわる「環境デザイン」も「ファッション」も、全て空間演出と呼ぶことができます。舞台美術や映像などの仮想空間のものも、もちろん空間演出と呼びます。

## 印象を考えないと、意図することもできません

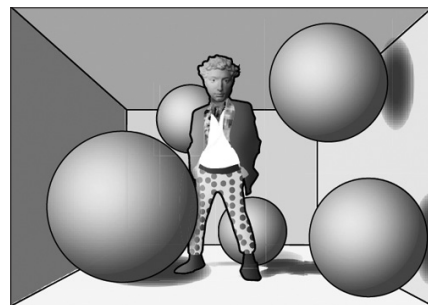
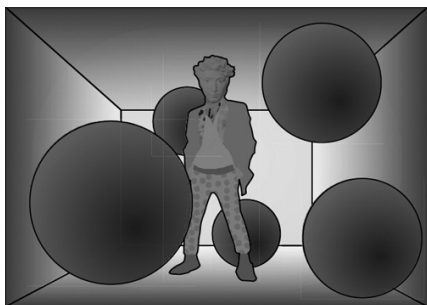
空間に物を配置することで、空間の印象が変わります。



配置する物の形によって印象が変わるのはもちろんのこと、



その大きさや密度によっても、印象が変わります。



光も、印象を大きく変える要素となります。

ほかにも、

- どこから見ることを前提にした空間なのか（空間の外から見るのか、空間の中に入り込むのか）。
- どの角度から見るのか。
- 配置する物の、色や質感。
- 光源をどこに置くのか。
- 動きなどの、時間的な変化。
- 音響。

などといった要素についても、空間演出では意図されていることが多いものです。

## さまざまな要素が絡まり合う、演出空間

- 第 1 回で学んだ「色彩の印象」。
- 第 2 回で学んだ「形から受ける印象」。
- 第 3 回で学んだ「光と影から受ける印象」。
- 第 5 回で学んだ「構図」。
- 第 8 回で学んだ「見立て」。

などが、空間演出に大きく関係してきます。空間演出の視点をもって、ここまでの放送を再視聴するのも意味のあることです。

もちろん空間演出は、個の単位である身にまとうファッションから、社会単位である環境デザインのようなものまでさまざまなスケールのものがありますから、その要素についても一概には言えません。それぞれの空間演出にあわせて、さまざまな要素を複合的に調整しながら、「空間に意味を持たせる」ことが重要です。より楽しく、より幸せに心地よくなるために、など空間演出の目的を効果的に見せる意図と工夫が肝心です。

絵画や彫刻などを見るために美術館に足を運ぶようなものとは違い、あなたを取り巻くさまざまな実在や仮想の空間には、多くの空間演出が存在しています。それぞれの目的や意図を考えながら、空間を意識してみるのもおもしろいものです。